

# 鉄鋼概況

## 2011年世界粗鋼生産ランキングで中国勢躍進

鉄鋼エコノミスト 左近司 忠政

4月末の普通鋼鋼材国内在庫（メーカー・問屋段階）は、前月末比 0.2%増、在庫率は前月末比 23.7 ポイント上昇の 149.8%と大幅増となった。普通鋼鋼材の流通在庫は前月末比 1.2%減の 273 万 4,000 トンと 2 カ月ぶりに減少、国内在庫率は前月末比 1.7 ポイント上昇して 17 カ月連続の 100%超となった。5月の国内粗鋼生産量は、前年同月比 2.0%増と 3 カ月連続して前年同月実績を上回り、前月比でも 1.7%増で 2 カ月ぶりに増加したが、日産量は前月比 1.6%減で 5 カ月ぶりに減少した。5月の輸出（全鉄鋼ベース）は前年同月比 21.0%増で 15 カ月ぶりに前年比増に転じた。国内の普通鋼電炉メーカー16社の2012年3月期の決算は販売数量増や単価上昇により13社が増収となり、特殊鋼専業メーカー5社の決算は高収益を維持した。鉄鋼連盟と基幹労連は「経済成長との両立」の視点に立脚した総合的な議論を行うよう求める要望書を共同でまとめた。2011年世界粗鋼生産ランキングで、アルセロール・ミットアルは1位を保ったがシェアは統合時から大きく低下し、中国勢は河北鋼鉄集団が2位、宝鋼集団が3位を占めるなど上位で勢力を伸ばした。5月の世界（62カ国）粗鋼生産は、前年同月比 0.7%増と4カ月連続の増加、前月比では 1.4%増と2カ月ぶりに増加したが、日産量は同 1.8%減で5カ月ぶりに減少に転じた。

oooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooo

### ◆ 5月の鉄鋼輸出、最高記録を更新

鉄鋼連盟が発表した4月末の普通鋼鋼材国内在庫（メーカー・問屋段階）は、前月末比 1万 2,000 トン、0.2%と微増の 552 万 4,000 トンで 3 カ月ぶりの増加となった。在庫率は前月末比 23.7 ポイント上昇の 149.8%と大幅増となった。一方、4月末の普通鋼鋼材の流通在庫は鉄連が行った全国市中鋼材数量調査によると、前月末比 3万 4,000 トン、1.2%減の 273 万 4,000 トンと 2 カ月ぶりに減少した。4月の販売量は前月比 2.9%減の 262 万トンとなった結果、4月末の国内在庫率は前月末比 1.7 ポイント上昇して 104.4%となり、17 カ月連続の 100%超となった。

主要鋼材の在庫状況をみると、4月末の薄板3品（熱延・冷延・表面処理鋼板）の国内在庫（メーカー・問屋・コイルセンターの合計）は、前月末比 7 万トン減の 403 万 9,000 トンと 4 カ月連続で減少し、2011年12月の在庫量 431 万 8,000 トンから 30 万トン近い減少となった。4月は高炉メーカーで薄板設備の定期修理を実施したところが多く、国内向けの薄板生産は3月の 190 万トンから 161 万 6,000 トンに減少した結果である。メーカーでは、「適正在庫の目標値である 400 万トンまであと一歩のところに来ており、更なる水準適正化を進めたい」としている。建材の主要製品である H 形鋼の 5 月末流通在庫は、新日鉄系特約店組織である「ときわ会」の調査によると、前月末比 8.800 トン、4.3%減の 19 万 4,600 トンと 6 カ月ぶりに減少した。しかし、在庫率は 2.53 カ月と 6 カ月連続して上昇しており、依然過剰な水準が続いている。新日鉄では 4~6 月に続き、7 月も君津製鉄所の大形ラインのシフトダウンを継続するほか、堺製鉄所でも 6 月末から 7 月にかけて 2 週間

程度工事休止することで減産を一段と強化する。

鉄鋼連盟が発表した5月の国内粗鋼生産量は、前年同月比2.0%増の922万8,000トンと3カ月連続して前年同月実績を上回った。前月比1.7%増で2カ月ぶりに増加した。日産量は前月比1.6%減の29万7,700トン(年率換算1億800万トン)で5カ月ぶりに減少した。炉別生産では転炉鋼が前月比2.4%増の698万8,000トンと2カ月ぶりに増加し、反面電炉鋼は同0.6%減の224万トンと2カ月連続で減少した。

財務省が発表した鉄鋼貿易統計によると、輸出(全鉄鋼ベース)は前年同月比21.0%増の398万トンと、15カ月ぶりに前年比増に転じた。前月比では92万トンの大幅増で、5月としては2010年に記録した358万トンを大きく超え過去最高を更新した。全鉄鋼輸入は前年同月比8.0%減の65万9,000トンと3カ月連続して減少した。向け先別の輸出内訳は、アジアが同10.3%増の306万3,000トンで、そのうち中国向けは3.5%増の59万トン、アジアNIE's向けは1.5%減の120万4,000トン、ASEAN向けが21.5%増の114万4,000トンであった。また、米国は53.5%増の21万3,000トン、EU向けが2.3倍の7万9,000トン、中東向けが1.8倍の21万7,000トンとなった。国・地域別輸入量では、アジアNIE'sからが同16.5%増の42万1,000トンと増加が続く一方、中国からは30.3%減の9万9,500トン、ロシアからが23.8%減の2万トン、ASEANからが73.7%減の8,600トンと減少した。

#### ◆電炉メーカー、2012年3月期業績

トピー工業、中山製鋼所、東京製鐵、合同製鐵など普通鋼電炉メーカー16社の2012年3月期の決算は、販売数量増や単価上昇により13社が増収となった。また、主原料の鉄スクラップ価格が前期比で小幅反落したことで、製品と原料の値差が拡大し、共英製鋼など棒鋼メーカー4社が黒字転換したほか、合同製鐵など6社が増益を確保するなど、建築需要の回復傾向を受けて収益は緩やかに改善した。一方、工場が被災したJFE条鋼と伊藤製鐵所の2社は減収で、赤字計上を余儀なくされた。東京製鐵と住金スチールは増収ながら、H形鋼の販価が伸び悩み、赤字となった。

大同特殊鋼、山陽特殊鋼、三菱製鋼など特殊鋼専門メーカー5社の決算は、高収益を維持した。自動車生産は大震災の影響で一時的に落ち込んだが、後半からの急回復により特殊鋼販売量が増加し、一方で主原料である鉄スクラップ価格が期を通して安定した結果である。売上高計上利益率(ROS)は三菱製鋼が8%、大同特殊鋼、山陽特殊鋼も6%を超えている。

#### ◆鉄連・労連、エネルギー政策で要望書

鉄鋼連盟と基幹労連は、新たなエネルギー政策を検討する政府のエネルギー・環境会議が近く本格的な議論を開始するのを前に、「経済成長との両立」の視点に立脚した総合的な議論を行うよう求める要望書を共同でまとめた。要望書では、経済産業、環境両省の各審議会での議論が原発比率をどうするのか、二酸化炭素削減量がどうなるのかといった単一の論点に傾斜し、国民生活や雇用を支えるための「健全な経済成長との両立」の視点に立った議論が不足していると指摘し、複数の選択肢ごとに国民生活への影響などを明確に示すように求めた。

政府の関係審議会が提示した選択肢原案では、最大のケースで電力料金が約2.5倍となり、実質GDPを9%押し下げる見込みである。それに対して要望書は「その場合の経済・雇用や国民生活全体の最終的な姿が明確でない」とした上で、①持続的な経済成長が達成可能なのか、②家計の可処分所得の水準や雇用水準はどの程度になるのか、③国民1人当

たりの負担額はどの程度になるのか——といった点を具体的に提示することを求めている。

鉄連は、同じ内容の要望書を石油連盟や日本自動車工業会など8団体と共同でまとめ、産業界の要望として政府へ働きかけるとしている。

### ◆中国勢躍進——2011年世界粗鋼生産ランキング

世界鉄鋼協会（WSA）が発表した2011年の世界粗鋼生産ランキングによると、アルセロール・ミッタルが世界一位を保ったが、シェアは6.4%と統合時（2006年）の9.4%から大きく低下している。中国勢は河北鋼鉄集団が2位、宝鋼集団が3位を占めたほか、江蘇沙鋼集団が7位、首鋼集団が8位、鞍鋼集団が10位と上位で勢力を伸ばした。さらに上位20位に9社入っている、日本勢では新日鉄が6位、JFEスチールが9位となりそれぞれ前年の4位と5位から後退した。また、新日鉄と27位の住金の2011年生産を合わせると4,610万トンとなり、4,410万トンだった2位の河北鋼鉄集団を上回り2位に位置付けられる。

2011年の上位5社のシェアは17.2%と前年比0.6ポイント上がり、上位10社でも27.5%と3.3ポイント上昇、上位20社では40.3%と5.3ポイント上昇した。中国勢の統合を背景に、大手への集約が進んだ結果である。

表1 鉄鋼メーカー別粗鋼（2011年）—世界鉄鋼協会

(単位:100万トン)

| 社名            | 本社所在地   | 年間生産量 |
|---------------|---------|-------|
| 1 アルセロール・ミッタル | ルクセンブルグ | 97.2  |
| 2 河北鋼鉄集団      | 中国      | 44.4  |
| 3 宝鋼集団        | 中国      | 43.3  |
| 4 P O S C O   | 韓国      | 31.9  |
| 5 武漢鋼鉄集団      | 中国      | 37.7  |
| 6 新日本製鉄       | 日本      | 33.4  |
| 7 江蘇沙鋼集団      | 中国      | 29.9  |
| 8 首鋼集団        | 中国      | 29.8  |
| 9 J F E       | 日本      | 30.0  |
| 10 鞍鋼集団       | 中国      | 39.1  |
| 11 山東鋼鉄集団     | 中国      | 23.8  |
| 12 タタ製鉄       | インド     | 24.0  |
| 13 U S スチール   | 米国      | 22.0  |
| 14 ゲルダウ       | ブラジル    | 19.9  |
| 15 ニューコア      | 米国      | 17.9  |
| 16 ティッセン・クルップ | ドイツ     | 16.7  |
| 17 エブラツ・グループ  | ロシア     | 16.5  |
| 18 馬鞍山鋼鉄      | 中国      | 20.5  |
| 19 本鋼集団       | 中国      | 16.8  |
| 20 現代製鉄       | 韓国      | 16.3  |

### ◆5月世界粗鋼生産、1億3,057万トン

世界鉄鋼協会（WSA）が発表した5月の世界（62カ国）粗鋼生産は、前年同月比0.7%増の1億3,057万トンとなった。4カ月連続の増加だが、伸び率は1%未満に止まった。前月比では1.4%増と2カ月ぶりに増加した。日産量は同1.8%減（4,212万トン）と5カ月ぶりに減少に転じた。

中国の日産量は過去最高だった前月に比べ2.2%減（1,975万トン）と6カ月ぶりに減少した。中国以外では1.5%減（2,236万トン）と2カ月連続で減少した。新興工業国の日産量は、韓国が同2.2%（193万トン）と4カ月ぶりに減少に転じ、インドは過去最高に近い水準（200万トン）を保った。ブラジルは7.8%減（93万トン）と5カ月ぶりに減少した。先進国では、EU27が同0.9%減（493万トン）と2カ月連続で減少、北米は同4.0%減（343万トン）と2カ月ぶりに減少し、日本は1.6%減（298万トン）と5カ月ぶりに減少するなどそろって減産した。 □